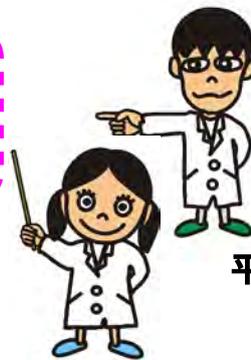


感染症に気をつけよう！



平成26年
【8月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		説明	【 】は解説付き既刊号 ← クリック
腸管出血性 大腸菌感染症	流行	増加	9月にかけても多く発生すると考えられます。下の解説を参考にして、 <u>人から人への感染にも注意</u> しましょう。	【7月号】
伝染性紅斑 <small>こうはん</small>	流行	やや減少	リンゴ病とも呼ばれます。妊婦の感染では胎児に影響が出ることがあります。 <u>予防には手洗い</u> が大切です。	【6月号】
ヘルパンギーナ	流行	やや減少	主に乳幼児がかかる <u>夏かぜ</u> で、突然発熱し口の中に水ぶくれができます。患者のオムツを替えたら、 <u>よく手を洗い</u> ましょう。	

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

■ O157(オーイコナナ)など病原性大腸菌に汚染された物を口にすることが原因です。食物から以外に、感染した人から他の人にもうつります。腹痛と下痢が何回も起き血便が出ます。抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では重症になりやすいです。

■ 市内では例年を上回る報告があり、家族内での感染も増えています。

■ 家庭での感染を防ぐには、手洗いが重要です。

下痢の症状がある人は、他の人とタオルを別にしましょう。

トイレは常に清潔にし、ドアノブ・水洗レバーなど手の触れる所は、特にていねいに掃除しましょう。

■ 全国的には毎年、保育施設における集団発生が多くみられます。

■ オムツ交換の際の手洗いを徹底しましょう。

園児への排便後・食事前の手洗い指導も大切です。

簡易プール等の衛生管理にも注意が必要です。



海外旅行先での 感染症

■ 夏休み中は毎年、海外で感染症にかかるケースが増加します。渡航先での感染症にも注意しましょう。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】